

香川大学教育学部附属坂出中学校で 支援活動① を実施しました

5月10日、教育創造コースの2年生が香川大学教育学部附属坂出中学校の総合学習「CAN」の活動に参加しました。附属坂出中学校では、学年の枠を超えたチーム（クラスター）を作り、探究テーマを決めて「CAN」に取り組んでいます。

【ガイダンス】

- 附属坂出中学校では総合的な学習の時間を全ての学びの基軸になる存在として位置づけて運用している。
- 高校でも総合的な探究の時間があると思うが、生徒の立場で行う探究と教師の立場での探究活動の違いを感じてほしい。
- 教師は何をしたらよいのか。今日は、教師の視点を持って、生徒の支援をしてほしい。

吉田教頭先生のご講話より

- CANとは、Cluster（異学年合同の小集団） Action Learning（お互いに質問） Narrative Approach（語る・振り返る）の活動のこと。
- 探究とは、自分で問いを設定し自分なりの最適解を見つけること。調べ学習ではない。
- 本日は中学生の探究活動に入り、テーマや仮説の立て方、検証方法などについて質問をしてほしい。
- 教師の生徒への関わり方を見て学んでほしい。

宮崎先生のご講話より



支援活動の様子



【坂高生の感想や反省】

- 最初は緊張して、うまく話しかけられなかった。
- 仮説に対してうまくアドバイスするのが難しかった。
- 疑問に感じた点は見つけられたけど、それをうまく言葉にして質問するのが難しかった。
- 中学生の研究内容が予想以上にしっかりしていたり、着眼点が面白かったりして圧倒された。
- 次は、もっと良い意味で中学生を本気で悩ませる質問ができるようにしたい。

相手のためになる質問をすることがとても難しかったようです。次回の支援活動では、今回できなかったことができるように努め、目標を明確にして取り組みたいと思います。